

国公立英語 2 次指導（和文英訳・英作文）について

研究主事兼指導主事 中瀬 浩

個別学力検査で、和文英訳、英作文のある大学は数多い。読解問題等と兼ね併せて総合的に学力向上をめざすことは必要だが、個別指導により、合格水準に達する英文を書くことができるよう指導する必要がある。当該大学の過去の問題だけでは、何回かで終了することもあり、さらなる指導が必要であろう。授業等で用いてきた英作文指導の教科書やプリントなどの復習を生徒にさせることもできるであろうし、他大学の問題にチャレンジさせることもできるであろう。（事実、違った年度に近隣の大学同士でほぼ同じような内容の和文英訳が出されていたこともあった。）ここでは、和文英訳とトピック等について英文を書く英作文とを区別した上で、和文英訳型の指導をする際に私がとってきた方法を紹介させていただく。短期間ではあるが、この時期に集中して指導を行い、英語として読んだ時にもとの日本語の意味する内容がある程度表現できていて、主語・述語の脱落もなく、きちんとした英語が書けるようにすることがねらいである。

1 指導時期

1 月末から前期・中後期の前まで、個人指導を行う。

2 月上旬は様々な私学の入試があり、前期 2 月 25 日までは、3 週間弱しか指導期間がとれない。また、推薦による選抜、適性検査等もあり、日程的には厳しいものがある。

1 教師で 5 ~ 10 人を個人指導するとして、自分の授業の空き時間帯にだいたい 1 コマに 2 人程度を入れる。

1 週間に 2 ~ 3 回程度指導を行う。（前もって英文を見ておいた上で。）

2 指導用教材

増進会出版「実戦編・英作文のトレーニング」を用いた。

3 指導方法

(1) 1 回目の指導時、5 人 ~ 10 人の生徒を一斉に集め、出願大学等を書かせた調査票（別紙 1）に記入させる。

プリント（別紙 2）に用意しておいた 1 番 ~ 6 番をその場で解答させる。

一人 1 問ずつ解答させて、添削を行う。

その際、下記の留意点を告げておく。

一問にかける時間を限定する。例えば 3 分 ~ 7 分。（今回は一斉に時間を切ったが、個人差があるので、自分で時間をつけておく。）

日本文をしっかりと読んで日本文が言わんとすることを把握する。極端な場合は日本語で言い換えたものを英語で表現すればよい。

和英辞典は使わない。わからない単語は言い換えなどで対処する。

模範解答をかけるようにするのではなく、7割以上の内容が書けていることを目指す。

文法的ミスを極力さけ、うろ覚えの言い回しは使わない。

基本的には単文の積み重ねである。

(2) 次のようなことを指示する。「次回からは、書籍を買った後、B5またはA4サイズ
の用紙に、問題を1つずつコピーしたものを張り付けるか、手書きで写す。それを
6問～10問程度やって、2回目の個人指導時より前日までには提出しておく。

2回目 7番～12番

3回目 13番～18番 という具合に。」

(3) アポイント表(別紙3)を渡し、自分の希望日時を言わせ、教師もその表を用い、
自分のスケジュール表を埋めていく。

(4) 生徒の書いたものをベースに、添削をしておき、留意点 ～ に注意しながら、講
評をする。

4 成果

(1) 初めは、きちんと完結しない文を書いていた生徒が、徐々に主語・述語を意識し
て、明確な文章を書くようになった。

(2) 日本文の解釈をするようになり、その内容を英語で表すことに意識がいくよう
になった。

(3) 知らない単語を空白のままにした文でなく、なんとか文としての体裁の整った文
を書くようになった。

(4) 自分なりに枝葉末節の部分を省いたりして、間違いを少なくするようになった。

(別紙1)

和文英訳・英作文 個人指導調査票

3年()組()番()

1 出願大学 前期()

中期()

後期()

2 和文英訳・英作文で、
自分が得意な点

不得意な点

(別紙 2)

旅の楽しみ方は人それぞれであろう。名所旧跡めぐりもよいが、私ならまず食べ物である。

(別紙3)

アポイント表

		(2/)	(2/)	(2/)	(2/)	(2/)
		月	火	水	木	金
1	8:50					
	9:40					
2	9:50					
	10:40					
3	10:50					
	11:40					
4	11:50					
	12:40					
昼						
5	13:25					
	14:15					
6	14:25					
	15:15					
7	15:40					
	16:30					
	16:40					
	17:30					

5 指導事例

旅の楽しみ方は人それぞれであろう。名所旧跡めぐりもよいが、私ならまず食べ物である。

(指導例)

The ways how we enjoy our trip is different from others. Traveling sightseeing to sightseeing is wonderful, but as to I, food is most wonderful.

The ways how we enjoy our trip	are is different	from others .
	vary differ	

Traveling sightseeing to sightseeing Sightseeing Doing the sights of famous spots	is	wonderful wonderful , interesting	but as to I , food is
----------------------------------------------------------------------------------------------------	----	----------------------------------------------------	---------------------------------------------

the most important. more important. most wonderful.

(コメント)

- The ways how のところは、関係副詞 4 つのうち、先行詞と関係詞のどちらかしか使わないパターンである。
- 主語に合わせたら be 動詞は複数の are。 are different の代わりに vary, differ といった動詞も可。
- from person to person で 「人それぞれで」の意味になる。
- Traveling sightseeing to sightseeing は、名所から名所をめぐることの意味で書いたのだろうが意味がわからない。「名所旧跡めぐり」を大胆に sightseeing としてもよいだろう。または、「有名な場所を観光すること」として、Doing the sights of famous spots とも言える。
- wonderful のつもりが、wonderful となってしまった。
- 「私にとっては」の意味では、to me でよい。前置詞 to の後は、目的格。
- food それ自身の中での比較ではないので、the をつけるか、more にして important の方がよい。

不老不死は人類の夢である。しかし、もしそれが実現したら、地球上は人で一杯になってしまうだろう。

No old and no death are human's dream. But, if it is real, there will be no room on the earth.

(添削例)

Not to get old and not to die	is	a dream of human beings.
No old and no death	are	human's dream.
Immortality		

came true	would	place for new generations to live on
But, if it is real ,	there will be no	room

on the earth.

(コメント)

- ・ No old はよくない。基本的には no + 名詞。 no death も「死亡数が 0」の意味。あえて書くならば、「年をとらないこと」「死なないこと」を考え、not (never) to get old and not to die とする。
- ・ dream に冠詞がいるが、「不老不死」以外にも「平和に生きること」なども人類のその他の夢と考えられるので、a dream にする。人類は human beings が通例で所有格より、of human beings とした方がよい。
- ・ if it is real は、ありえない仮定であるし、dream との関係で if it came true とすべき。
- ・ 書かれた文を尊重すると、place は place でも どのような場所が無いのかを言うべきであろう。また、もとの日本語どおりに、the Earth would be full of people でよい。

6 最後に

コメントの部分は、実際の場合、口頭での指導となるだろう。

参考書には解説、合格解答、模範解答などがあるが、合格解答にまで至らないことが多い。そのレベルでは、指導する側の知恵を振り絞って、生徒が書いてきたオリジナルの解答を尊重しながら、指導していく必要があると考える。